



栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 02-001

国立国会図書館





地蠶 子キリ虫

昼ハ葉ノ裡及根ニカクシ夜中
梢ニ上テ葉及花ノ目出シテ食ラ
草花ノ類ニ至テ害アリ別テ
剪紅羅ノ



ハリガ子ムレニ種 土中ニアリ
一種細長クモノ人觸レハ至テ
短ク行クハ細ク長



久病人ノ床ノ辺蒲團ノ上處ヲ抗タルゴミノ中ニ此虫
生スルコアリ油キリタル光アリヨクハ子ヲドリテ手ニ
ツムコナリガタシ此虫ノワク病人難治トミエテモ遂ニ
本複ス

大正
8. 10. 2
購求





毛虫ノ葉爾ニ黒毛
交ハタルモノナリ



ヤブカラシ
五爪龍虫
イモムシナリ好テ
尾ヲ動カス尾刺
端白シ七月廿二日
之

口ハ近キ眼ノ如キ班実ニ
目ノ如シニツキテ朱圓
ヒラタシ黒ノ処天鷲絨
ノ色ノ如シ

松ノ葉ヲ食フ虫





松毛虫

王子滝ノ川ニ捕ル雄ハ
ヨロ腹カバノイロノ処アリ
声ヲテシテ啼ト云ハ誤ニ
啼ク者ハ松虫ト云モノ
ナリ松蟬凡云蟬母ニ



サカキ虫五月六日
一休形扁シ
頭黒キ処サ
ベニ色ノ如シ



蠋(種大サ杖共ニ團ノ如シ)

行ク時ハ首ヲ伸ヘ
ホツク蛇ノ舒クニ
異ナラズ只頭尾
ニ各一角アリ



松毛虫





蛸々者蠟

俚云蠟桑虫如蠶者也
ラハノムシ万葉集ニ再此具
波麻欲ハ此者ノ作レル蘭
イナリ和名抄桑蚕即
桑蠶也唐韻云フ蠟
野蠶蛾ノ罔傍ニ此和歌ヲ載セ
タリ参観アルベシ和名抄ニ
クワムユト云フ

野蠶

ノラオコクワトモ云フ
罔加ク頭大ニテ猿面ニ似タリ
六月三日写ス



柿ノ奥猿面ニ似タリ

ムベニ生スル虫ノ状ニ

似タリ尺蠖ノ類ナ

リ又此虫ムベ

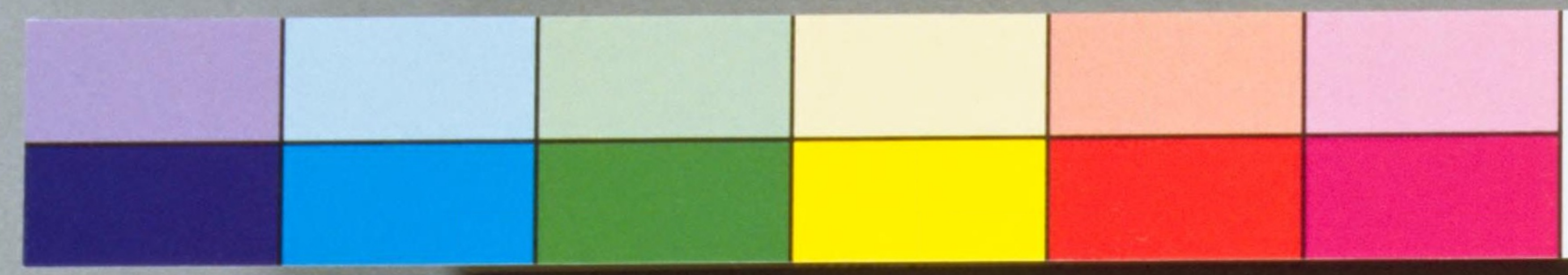
ト云フ蔓州

ニツクテアリ



秋ノ奥九月ナリ裸虫ノ如シ微毛アリ





當歸ノ虫 怒則生角有臭
 氣与橘蠹紡佛又与茹白
 芷葉本及陳香詩蘿等
 蠹其俱皆同物也



戊午九月廿六日字



牽牛蟲

甲戌八月二日寫之



朝魚ノ莖葉ニ絶テ虫ノツカガレモノト人々
思君ツレ風ノ透サル処ニテ葉多クコモ
リタルニヤ、モスレバ此虫付アリ此虫月
ヲ径レハ極テ大ニナリテ三寸餘ニ至ルモ
ノアリ早クトリ捨サレハ花ノ塔蕾ヲ喰
折テ花ヲサカセス大ニ害ヲナスモノニコレ
イモムシノ類也

此物金線梅及雁鳥^レ^ハ着テ嫩葉ヲ喰テ大ニ害ヲナス早クトリ捨ベキナリ或云此虫ヲ取外
殻ヲ剥テ小匣ニ納蓄フハ金糸ハ銀糸ハ紅絲四五分許ニ剪斷ノ入置ハ一夜ヲ綴ヨ
セテ巢トナス奇觀トナスベシト予懇友芝陽モ試タリトテ語ル

ミノムシ
大小二種



四五月ノ頃薔薇長春及金線梅等ニ
多ク着嫩葉ヲ食フ又花前ニ其蓓
蕾ヲ蛀メ花ノ害ヲナスモノナリ木葉ノ咬
残りタルヲ綴リ巢ニ作ルヲハムスビ又云
ツレミノト云中華古今注ノ結草虫也採蘭雜誌ニ木蝶ノ名アリ又細枝ヲ聚
テ結巢スルモノアリミノムシト云
程冬醫抄撮要ニ出其書ニ云今柘榴上復有一種聚短梗半寸以來周圍植之
以自裏身行則負以自隨亦化蛹其虫俗呼避債虫



蝟ノ種異品嫩緑ニシテ柔ニ透明之
 性静ヲ揺走スルヲナシ背ノ黒子ヲ
 生スルヲ三十四枚アリ黒皮アリ堅シ
 脱ノ子出ルモノ如シ至テ柔ニスキ
 トオルモノニ文政九丙戌四月晦日園
 中ニアリトテ子供モチ来ルニ任セテ
 写真ニス



一種奇品尾作岐



鹿ノ角 榎ノ葉ニ付テ食フイモムシノ角至テ堅シ
 角端ニ岐アリ枝角ナリ角ヲ以テ引ニ後足ニテシカト
 葉ニ取付キテ離レズ首ヲキレ切ルニ至ルニ又離レズ
 異物ナリ





蠟ノ異品

己卯年四月廿日

園中ニテ小兒ミツケテ持来ル背ニ黒キ

硬キ刺甘本アリ

モトホツクサキモ

尖ラスコレニ觸レ

テモ手ヲサ、状

小苗香ノ実ノ如シ

糸目ノホソキ筋アリ

リ一体此虫ハ青ク

透キトホリテ至

テ柔ナル虫ナリ



柚虫

又臭橋ニモ生ス
五月ヨリ
六七月迄アリ



梅樹ヨリ落ル蠟終ニ絲ヲ吐キ巢ヲ造ルスキダワラト云蚕虫ヲ煮ル如クシテテグスヲ製
スト云フ唐山ニテテグスヲ楓蚕絲ト云フ此虫形蠟ニ似タリ其背ニ又白毛ヲ生ス奥州
會津ニテ方言シラガダユウト云フ此虫ノ作タル

繭ニテ布ヲオル毛織

ノ如ク至テ強シトス

俗ニ毛虫織ト云フ

此虫粟ニモツク五

月九日ニ写ス

信州飯田ニテ此虫ノ

マユヲ作ントスルトキ

此賜ヲトリテグスヲ作ル

コレヲナラムシト云フ阿州

ニテ櫟樹上ニ卵ヲ置テ殖養ストナカンゼウト云フ

テグスヲ作ル紀州ニテモ同シ專ラ釣繭ニ用エト

聞ク





山藥蠅
イモムシ

全上

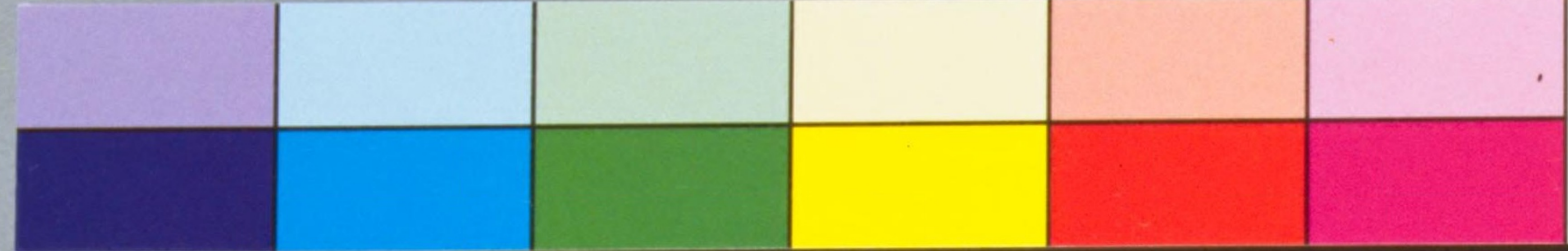


身スキトオリ
油ギリテ光アリ
糞糞ノ如クチツミ
イロナリ

書蠹
大ハ胡麻程ナリ顕微鏡ニ見ル
其大サ此蠹ノ如シ目ナク只蠹アル
ノミ一年暑中風入セガレハ此虫
生ス大害ヲナスモノナリ

梨樹葉蠹蟲 未、四月廿四日写ス





エヒツルノ虫
七月蛹ニ化ス



烟草虫
八月初旬



尺蠖虫
四月念四取而写之
全身黒褐色似枯
枝



尺蠖 俗ニ尺取虫ト云フ
皮蛻心前後足ニテ本
ニ着キ直立木ノ如シ
コレ即蚕ノ桑ヲ不食
メ眠ルト云フモノニ似タリ
苗ノ如シ

其蛻ル時先頭
皮落ツ形如圖





テツホウムシ
木中ヲ蝕シ終ニ天牛ニ化シ飛出ス



螟蛉
アラムシ



榭心ヲ食
フ蟲



柳木蠹 四月十六日

小兒灸食ヲ味萼莫ノ虫ニ同シ此虫汁
ニテ寒ノ胭脂ヲトキ眼ニ滴入スレハ痘
毒ノ目ニ入タルニ妙ナリ
又咽上ニ塗レハ痘
其処へ不發ト云



蠶領
蟻如

枳椇蠹虫





稻ハシ 二種



ス、メノサカオケ
甲州方言サコケ
ト云フコレサカオケ
ノツマリタルナルベシ

雀癩 一名天猿子

和名ス、メノタゴ



縊女
クビクハリムシ
オキノムシ



如此頭ノ處ヨリ下へ裂テ釋出ル空處ノ
殼久ク枝上殘在ス





文政紀元薬品會ニテ見タルハ堅硬白澄ラ
 塗タルカ如シ形状ハ異ナルナリ是是輪池屋代氏
 手得ノモノト由



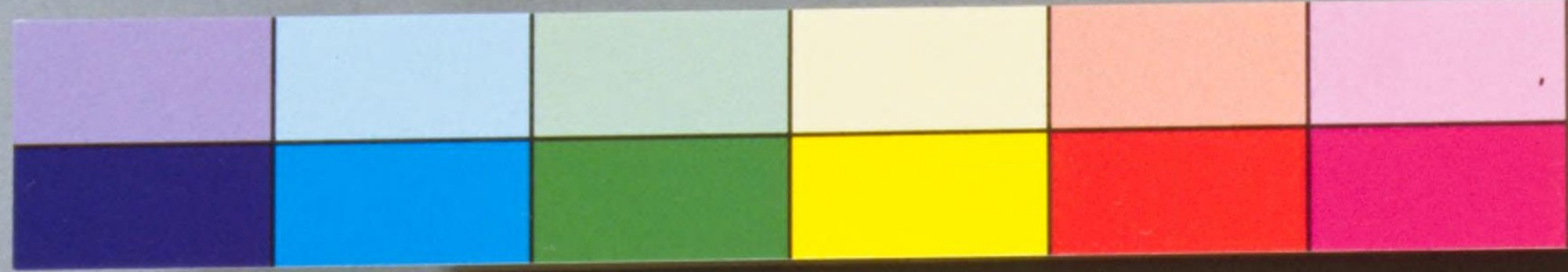
甘懐香虫蝨

ウイキヤウノムシ

橘蠹ト同ク黄色ナル岐角ヲ出スモノナリ

當歸白芷川芎等ノ芳艸ニツクモノ皆形同シ横ハラニ朱點アリ茴香ニツクモノハ黄點アリ後ニ羽化ノ
 鳳車トナルモノ是ナリ





瓢兒 此名見于帝京景物畧
 紫茄ノ虫ナリ六七月茄子ノ葉ニ自然ト生ス
 寂初鼠婦ノ如ク葉ノ裡ニツク時ハ皆黄萎
 ス多ク付時ハ精氣ヲ吸トリテ花實ヲ不結モ
 ノ形丸ク変メ不動ツイニテタウ虫トナリテ飛
 其色赤黒クシロキ星アリ
 麻城劉侗所著帝京景物畧ト云一虫有
 若半赤豆草麻点者曰瓢兒生莖畦捉之則
 溺腥黄汚不可脱而童子不已也

井筒子齋與ムハノ其甲子六月念六日馬之
 イモムシナリ尾ニ岐アリ其岐ニテ本葉ニシカ
 ムニシカトメハナレズ形尺蠖ニモ似タリ



寛政十二庚申中秋望前二日余在
直舍親觀食松針之虫即圖以
示同寮津愛山人云



文政四年辛巳秋月予家樓上安盆松俗呼姬小松
五葉者一日盆邊有沙子如胡麻子大其色青黑
狀恰似馬蹄決明子而小不知何物種子撒席上
命小婢而搜索之有小綠裡虫着松針速取捨
之廿三個于時仲秋望前二日也往年採圖者又
同時可謂一奇

以顯微鏡見
之形大如斯



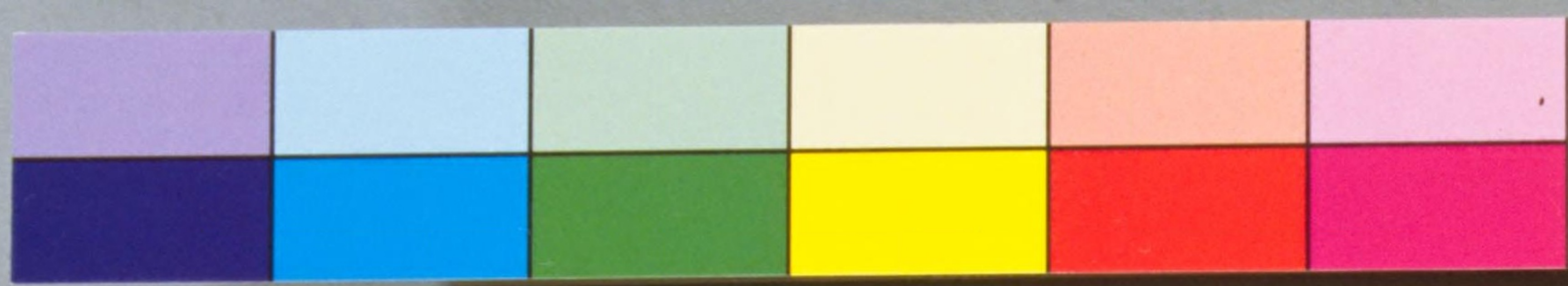
茶梅ノ枝ニ聚リツキ葉ヲ食フ毛
蟲ナリ山茶ノ蟲モ同ニ毒アリ人ノ五
リ或チニ觸テモ肌ヲヤセハ赤腫ハビ
コリ痛ク甚シ八月下旬有テロヨリ絲ヲ
吐下スルモアリ毛ハ白シ形小ナレ共其
害ヲナスコトハ甚シ

蒼薇ニツキテ
葉ヲ食フ虫
形ヒラタシ
八月二日



楳樹ノ
毛蟲





毛蟲
 未五月十七日大淵氏ヨリ
 持来ル其毛黒硬猪毛ノ
 如シ其中ニ鼠色ノ呈アル
 毛アリ



一種全身黒色兩眼
 有黄毛柔

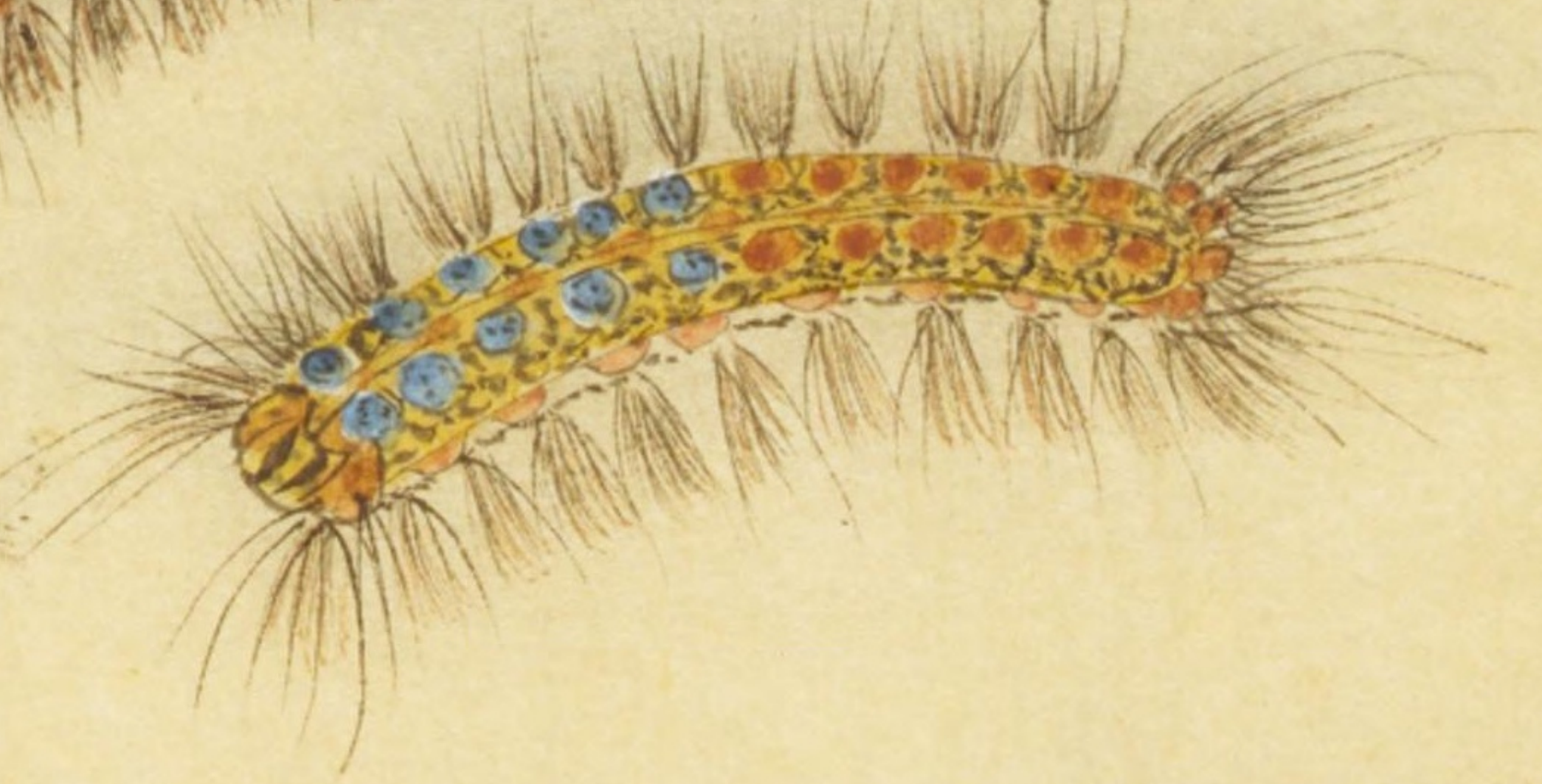
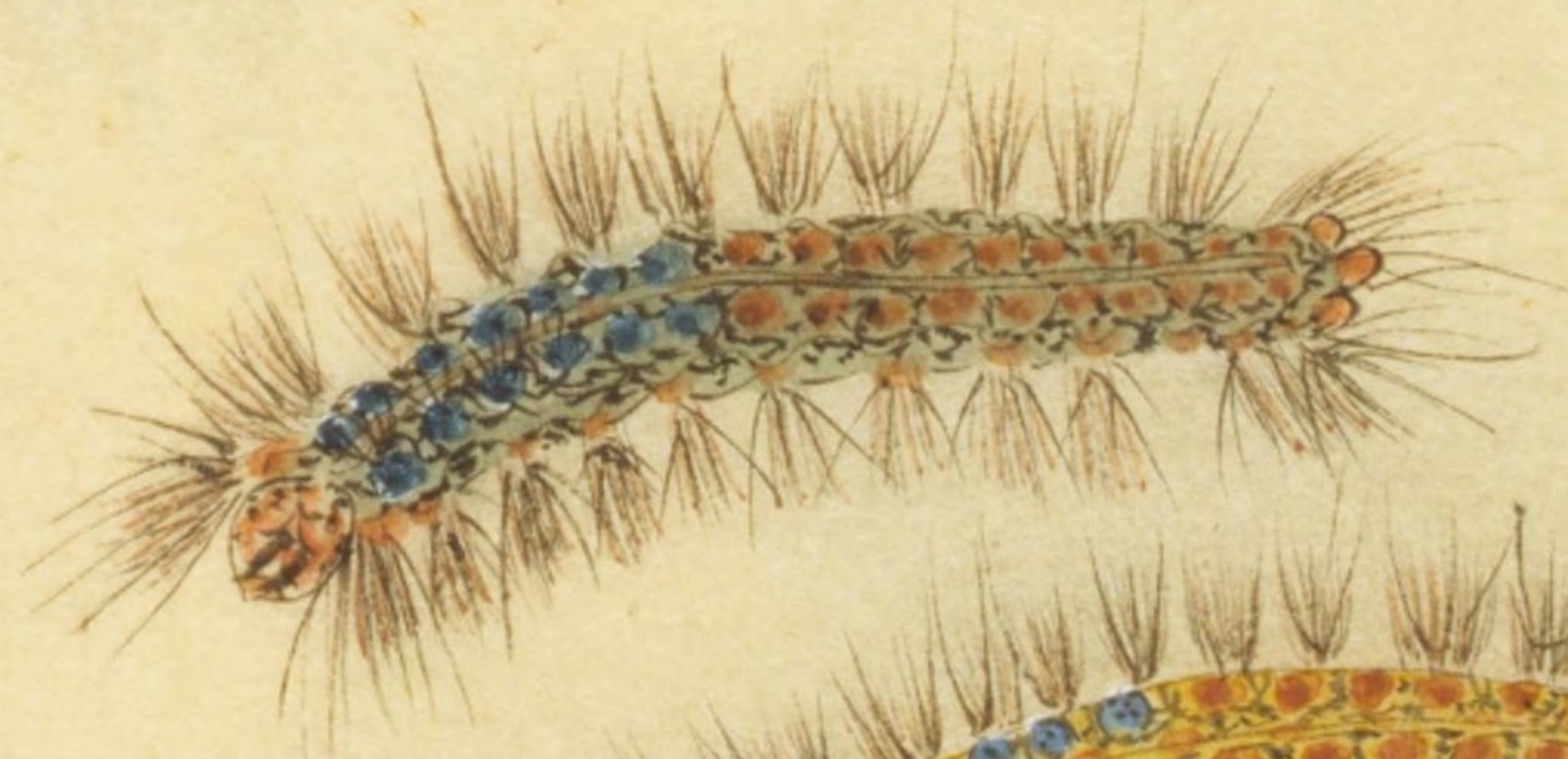


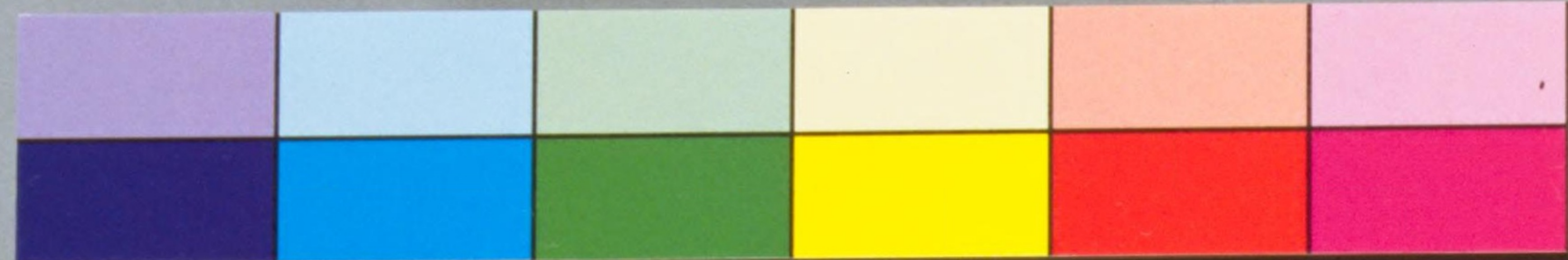
ニ、毛虫

長黒毛猪脊鬃ノ如ク
 オソルニ



カクアケムシ





ジコウボウ 振州方言ナリ宝永七庚寅ノ年七月初ヨリ京師洛中洛外家々ノ屋根ウラニ毛虫生ノ九月
 マデ不止蝻ル、時ハ腫痛堪難シジコウムシト云其後京大坂城内陣屋御番衆ノ小屋ニ生ス此ヲ患トス
 ジコウボウト云西國ニテイラムシト云モシ衣類ニ着テ肌ニ觸ル、時ハ其蝻ニタル處ノニ非ス遍身ニ腫ヒガリ
 痛ム朝顔ノ葉ノ絞汁ヲ傳シ合患ト云ナキ片ハ鏡器ニテ患處ヲ撫擦スル時ハ瘡ト云
 シコウ虫凡云毎年四五月ノ際羽化ノ蝶トナル此蝶又子ヲ生ム其子
 六七月ノ際カヘリ又ジコウ虫トナル八月九月ニ至リ再ヒ羽化ス其蝶來春ノ
 子ヲ生ム置テ翌年春カヘル年々兩度ツ、出來ルモノナリ其蝶銀色形
 如凶土岐称花生物ヲ浪辛ヨリ取寄ラレ、モノヲ手呈置ス
 天保癸巳七月朔日

今ニ至テヤハリアリナキ年モアリ
 又年ニヨリテ多ク生スルコトアリ
 大ニ人ノ害ニナルモノナリ



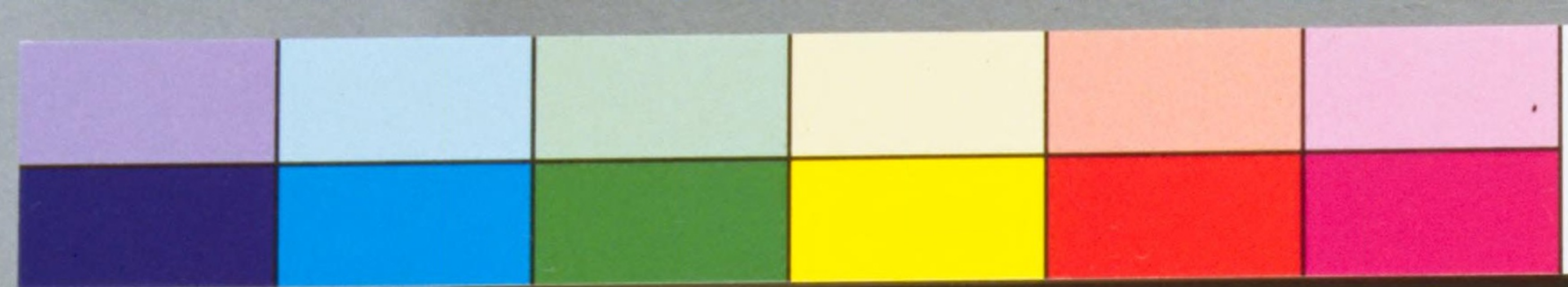
巳巳夏月鷲巢氏庭中
 得之

蝻 蝻イラムシ 蝻葉ヲ結フイ
 小指大ノ如ク斑アリ瘡癩一
 名天漿子ナリ此蝻蝻結與
 備急本草ニ俗称八角蟲
 ト云ヘリ

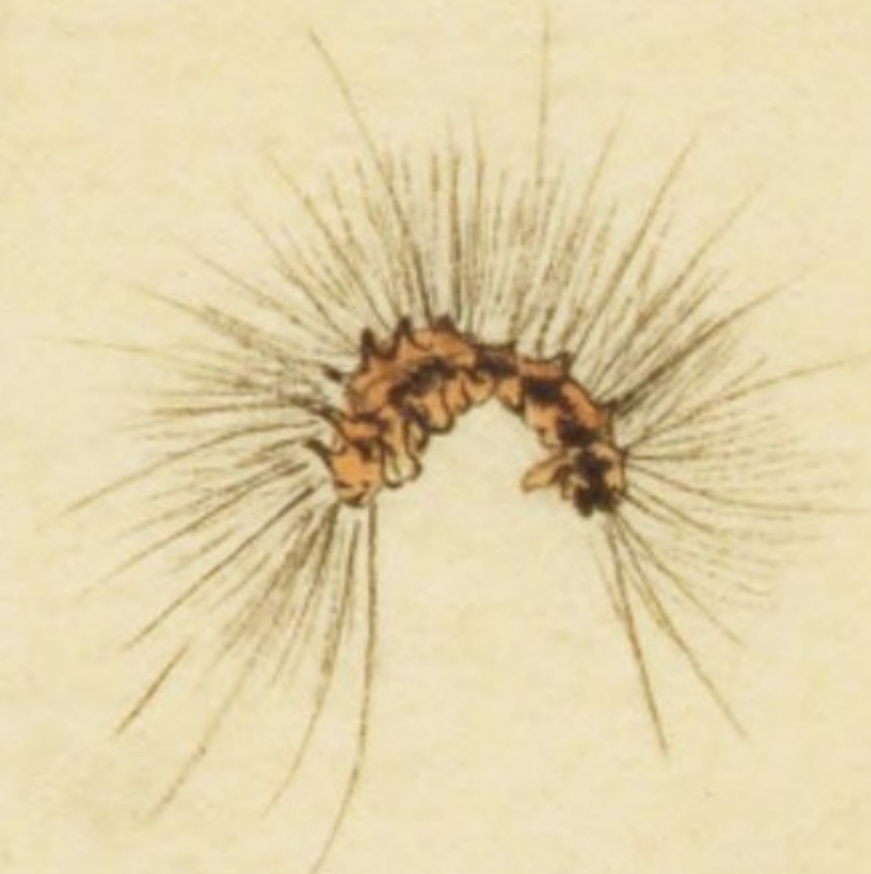
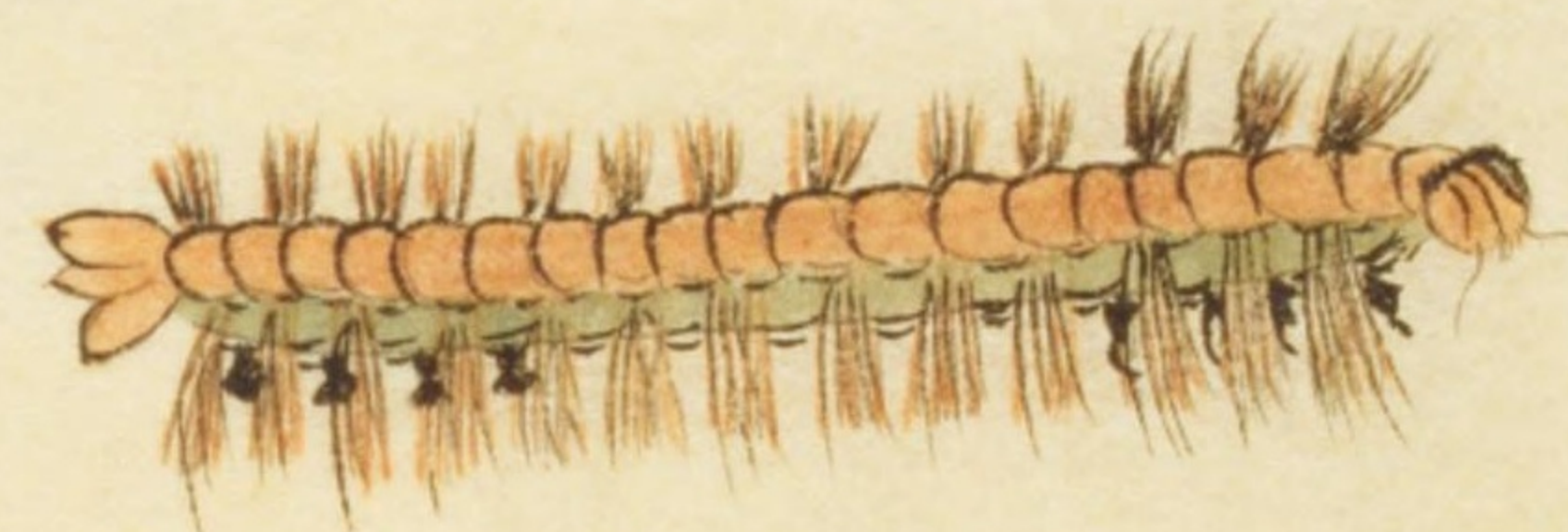


虫目鏡ニテ見ル大サ如凶常ノ
 毛虫ト異ナルイハ其毛生ル處痛
 ノ如ク高ク起ルサイカラノ刺ノ如キ
 モノ一處ニ集リ生ス眼ハイツミア
 ルヤシレズ





松毛蟲



芥葉鈎吻蠹蟲 丙子閏八月念三日自採官之和格
 中ゲマント云毒草ナリ江州ニテヘロミシ州ニテラバコロニ勢
 別ニテヒトコヨホリト云此葉ヲ生ミテ咬汁ヲ飲ハ即時ニ血ヲ吐
 一カワット既叫ノ聲死ス故ニ三声呼リノ名アリ大葉ノモノ葉白
 色ヲ帯冬春霜雪ヲ凌テ不凋ニ三月一二尺許茎ヲ抽テ穂
 ヲテ花ヲ開テ紫莖花ニ異ナラス黄色ナリ茎ヲ断ハ黄汁
 出甚惡臭アリ別テ此モノ大葉アリ小葉ノモノハ形一般ナトモ
 葉サキ尖リ毒同シ路傍樹陰向陽ノ石垣ノ間ニ生スルモ
 也
 大觀本草莖黃花者害人ト云モノ是也
 全通要畧鈎吻與芥菜相似諸食之殺入ト云モノモ芥
 此物ノ一種大芥毒芥ト云モノ其毒猛烈也芥葉ノ鈎吻
 也偶園中ニ自生スルコトアリ早ク採取リ深ク地ヲホリ埋毒
 也





結草蟲六品



蝥

即蝥女 和名ヨキクムシ アマノジヤキ

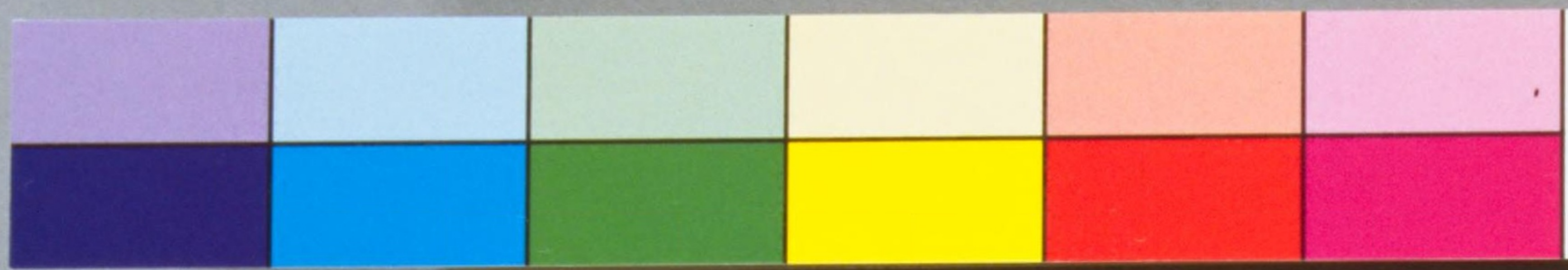
己四月下漸寫之活者甚稀之其形狀甚奇ヲ譬ルニ物ナシ其巧又細密ニノ人作ノ及フ処ニ非造化ノ妙見ルベシ

或云此物モヌケテ鳳車出ルト未此物ヲ養テ試ズ此モノ薩州鹿兒島ヨリ八里入ル処市来温泉深山中ノ産ナリ彼地ヨリ奇品トテ将来スト云テ橘宗仙院ヨリ惠贈セラレニ因テ其マ、寫真トス今ニ於テ此虫ヲ秘藏ス



屋代太郎方ニ自取秘藏スルモノ見ルニ歎此物ト
今只白色光アリ白漆ニテ塗タルカ如シ





縊女二種

俗ニクビクリカシ
ト云モノ是ナリ



按太平御覽云縊女虫也一名規
長寸許頭赤身黑恒吐絲自懸昔齊東
郭姜既亂崔杼之
室慶封殺其二子
姜亦自經 俗傳此婦
骸化而為
虫故以
縊女為
名

范石湖詩云橘蠹如螭入化機枝間重爾似
空衰衣歎然蛻作多花蝶翅粉繞乾便與毛飛





樗雞 ウチス、メ
 文政丙戌四月廿日佐
 藤氏ヲ訪フ時燈光
 ヲ幕来ル者ヲ捕ル
 重リタル羽ヲ開キ
 見レハ下ノ羽殊ニ
 深紅ニメ美觀ナリ
 本草ニモ形類蚕蛾
 但腹大頭足微黒
 翅兩重外一重灰
 色内一重深紅五
 色皆具故紅娘子
 灰花蛾名



全上



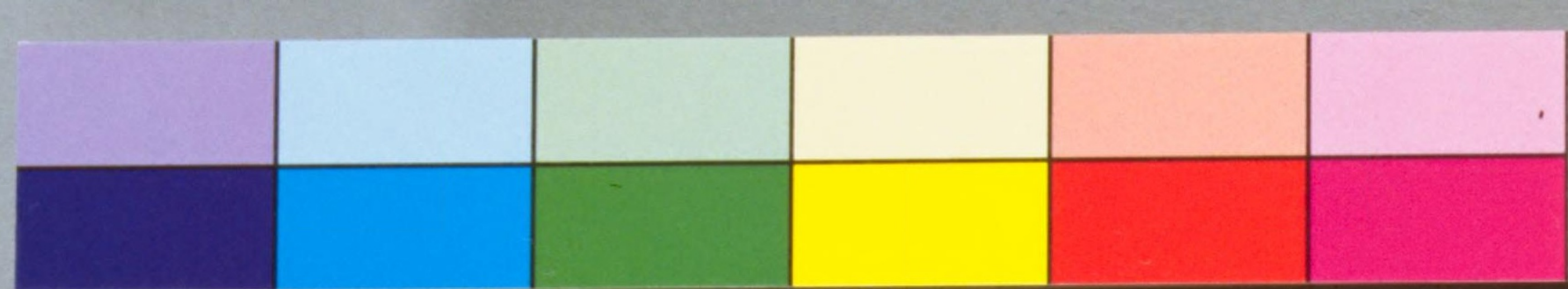
蛾

文政十三庚寅四月十七日ニマユヨリ
 出スマユニテ虫取紡ニテハル小樊ニ入レ
 御次ハ御頼ニナリタルニマユラ壞テマ
 蝶出ル子ヲウム白色深緑ノ斑文ヲ
 リ

樗雞
 ウチス、メ

透依ト云マユノ内ヨリ
 出ル其身ニ粉アリ羽ハ
 透明ナリ





蛾 異品

七八月ノ頃稀ニアリ其羽透明ニシテ
如シ晝ハ草葉ノ背ニ眠リ黄昏ノ時飛遊テ
花露ヲ吸フテ天蛾俗名々類別當ト云モ
ニ同其飛翔スルコ極テ捷疾ニテ捕ハカキ
モノナリ



巳卯五月廿日
園中獲之



似蝶非蝶其翼
透明無粒

未九月十四日馬真



文化年中
本城直舎親之為
奇出懐中紙唐突
筆記因不得彷彿
也





小蛾二種 コムギテア
 大麥ノ穂化メ
 小蛾トナル

其大ナルモノ



會津方言ヨロイテア
 虫山マユラ作り又化メ此標トナルモノナルハシト云果ノ然ルラ
 詳ニモシニ此標夏初梅標多キ林中ノ邊ニ飛行セル
 ヲハタリ



此二品ノ蠶 西城ノ命ヲ蒙リテ
 寫真ニシテ
 御覽ニ備フ時ニ文化十一年戌年五月
 四日野間玄琢 仰テ奉テ添テ簡
 ニテ將末ス翌日コノ畝ヲ上ル





鳳車 マダハ



ウシロ尾ノ方ヨリ
見レハ形如此尾魚
ノ如ク上方ノリ上
リニヤチホコノ如シ



丑ノ十月七日朝後園ニテ
取之惣体褐色枯葉ノ如
ク黑白ノ斑文アリ



花蛾

性輕捷ニテ
人ニ獲レズ指
頭ニ滴ヲ垂テ
出レハ花ヨリ
指頭ニ移リ
食アリ吸フ嘴
ヲ爪ニテ捕ル
去ルヲ得ズ

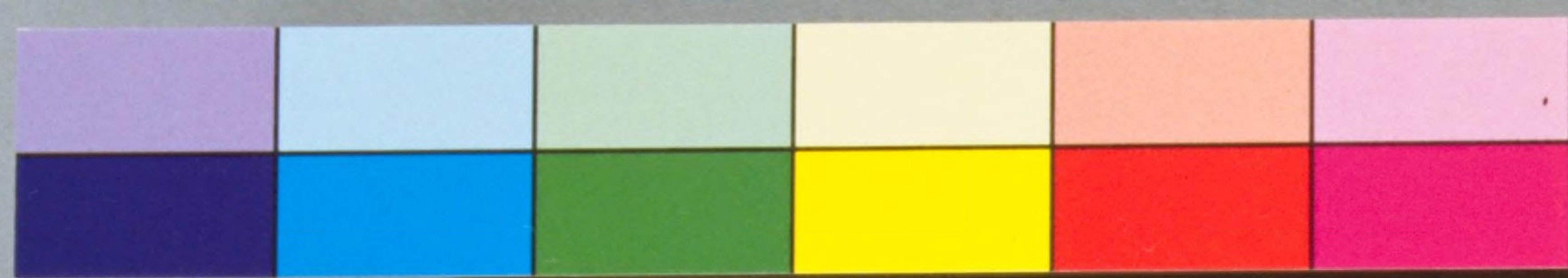


五月上旬左ニ園
スレ旁ノ葉ヨリ此蝶
破リ出ツ



毛虫ノ巢 毛ヲ以テ造ル内空
アリテマニノ如シ甚巧至テ美ナリ





大碧蛾 偶見之身重不能高飛者
未詳何樹蠶其所以化



ヨロイテフ
牽牛花色ノ如ク極テ
美ナリ然レ出ルコト甚稀リ
コト又鷹車ノ別種ニテ奇
品ナリ



紅蝙蝠
壬午志村城山熊壁
宮林中獲之季秋念
四日



此類俗ニユウカホヒヤウタント云身重クメ飛フヲ
解セズ何レノ本虫ノ化スル處ヲ詳ニセズ或云近未
山前ヲ作り織出スモノアリ此蛾ノ種子ヲカニ柘栲等
木ニ養育ノ繭ヲトルト云



樟虫 昔水蠶ノ次ニ在リ

樟虫入醋死引腹中筋長丈餘闖入用縁萍葵極蚕之絲亦勒可作大釣緝凡樹虫如蚕者皆有絲成繭成蛾熏紙甲皆厚

右清皖桐方氏淳山此藏軒物理小識

樟虫如指大長數寸綠色用醋洗之去肉其中有絲抽出長二尺許名曰虫絲用以繫釣 漳州府志

廣西横州有曰楓蚕楓葉始生有虫食葉如蚕赤黑色四月熟時吐絲土人劈取其絲光明如琴絃海濱蠻人買作釣緝

右明田藝蘅留青日札

昌滅開丹羽召伯庶物類纂云機謹按享保乙卯之春令瑯浦之譯士官梅某訪楓蚕絲子清人應曰是天蚕絲也一名虫絲出之東之海南福建亦有之此虫三四月間生於楓樹上至六七月而虫長大二三寸至腹肥大割腹取絲其狀如腸漬醋啐之為線風乾為釣絲之用又纏棕笠帽子之緣 本邦之俗以德愚思稱之蠻人專用作釣緝昌滅再按此虫粟及楓樹上ニ生ス指大ニノ全ク尋常ノ蠶虫ニ異ルナシ微毛アリ罔ノ



如し其巢ヲ結フヤ褐色也其網ヲナス絲甚強シ網目ヲナシテ中ノ蛹透テ見ユ小兒採テ螢
 火ヲ盛ル故ニ俗間螢袋ト云此虫ヲ多ク養テ其繭ヲ作ントスル前腹大ニ透明ノ時ヲ伺テ
 割取タラハ 本邦ニテモ得ルコ易カルベシ去歲或人懐中ヨリ自製ノ的具私一條ヲ出シテ
 ニ示ス透明淨白上品ノ物ナリ其人ニ問ハ自家養蠶欲作繭ノマへ咽透明琥珀色ヲナス
 時ニ取タリト語ス

楓蚕繭

テグスノ虫ノ巢也二種アリ其個ノ袋ノ内蛹スキ
 見ユルモノ也一種ハ繭ノ絲弱シ網ノ目細ニ赭黒色
 ナリ

嘗テ聞信州飯田ニテ橡樹上ニ生スル虫ヲ
 トリテテグスヲ作ルコレヲナラ虫ト云近年阿州ニテ
 殖養ノテテグスヲ作ル虫ヲトクカンジャウト云紀州
 ニテモコレヲ学ニテテグスヲ作ルモノヲ一者スルニ船
 來ノ物ニ異ナルコナシ虫ノ作レルムヲミルニ下図
 ノスキタハラ也丹州按ニ會津ニテ橡樹ニ養テ
 繭ヲ作ラシムル虫ヲシラガタユウト云絲ヲツキ
 テ布ヲ織ル上品ノモノハラセイタノ如ク下品ノモノハ
 モシバノ如クシオトリト呼テ國産トス此虫ノ作
 繭ニテ製スルモノ也此虫ニテ作レルテグス 靱糸トテ
 舶來ニ同シ四國紀州蠻人專ラ釣繭ノ用ニ備
 テ利益アリ



田舎野人此巢ヲ取り指
 頭ヲ入テ茶葉ヲ摘ム指
 端痛ムコナク疲ヒスト云俗
 スキタハラト云田舎ノ小兒此
 巢ヲ中ニ螢火ヲ納ルニ外ハ
 光リ遠テ通リニユ因テ螢
 袋ト云

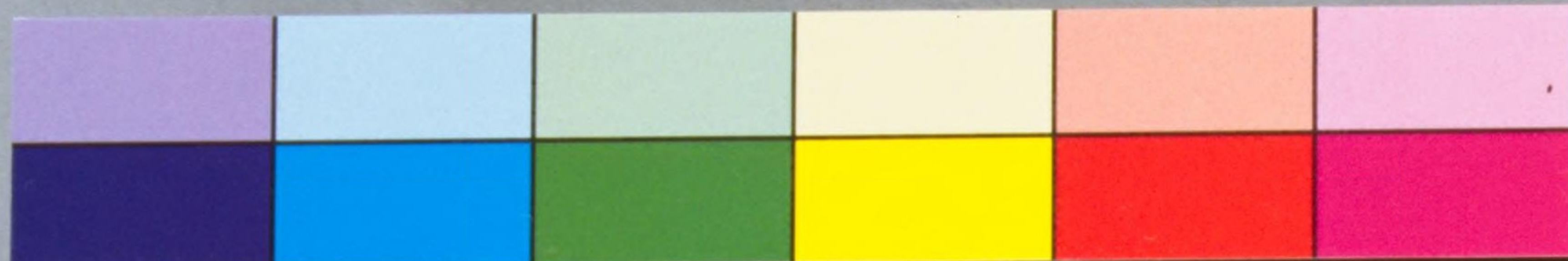
コレヲ作ル虫別處ニ留ラ出スミルヘシ
 唐山極蚕樟虫ノ名アリ何レノ木葉
 ニテモ喰フニヤ栗標ニ際ルベカラス



天蚕繭コレ蝶ニ化シ
 マユノクナヤブリテ出去
 マトノ空殼ナリ此蛾形大
 也別ニ畜アリ



此モノマユ野蚕ヨリ大ニノ絲堅靱ナリ唐山ニテハ
 此日ホラ造ハシムル前ニ腹ヲ裂テ其絲ヲトルト云野
 蚕絲也



如し其巢ヲ結フヤ褐色也其網ヲナス絲甚強シ網目ヲナシテ中ノ蛹透テ見ユ小兒採テ螢
 火ヲ盛ル故ニ俗間螢袋ト云此虫ヲ多ク養テ其繭ヲ作シトスル前腹大ニ透明ノ時ヲ伺テ
 割取タラハ 本邦ニテモ得ルコ易カルベシ去歲或人懐中ヨリ自製ノ的具私一條ヲ出シテ
 ニ示ス透明淨白上品ノ物ナリ其人ニ問ハ自家養蠶欲作繭ノマハ咽透明琥珀色ヲナス
 時ニエト
 田舎野人此巢ヲ取リ指
 頭ヲ入テ茶葉ヲ摘ム指
 端痛ムコナク疲レスト云俗
 スキタハト云田舎小兒此
 巢中ハ螢火ヲ納ルニ外ハ
 光リ透リミユ因テ螢
 袋ト云

管テ聞
 トリテグス
 殖養ノテグスヲ作ル虫ヲトクニヤウト云紀州
 ニテモコレヲ學ビテテグスヲ作ルモノヲ一者スルニ船
 來ノ物ニ異ナルコナシ虫ノ作ルルムユラミルニ下図
 ノスキタハラ也丹州按ニ會津ニテ檫樹ニ養テ
 繭ヲ作ラシムル虫ヲシラガタユウト云絲ヲツキ
 テ布ヲ織ル上品ノモノハラセイタノ如ク下品ノモノハ
 モシバノ如クシオリト呼テ國産トス此虫ノ作
 繭ニテ製スルモノ也此虫ニテ作レルテグス 靱葉トテ
 船末ニ同シ四國紀州蠶人專ラ釣綿ノ用ニ備
 テ利益アリ



コレヲ作ル虫別處ニ畜ラ出スミルヘシ
 唐山榧蚕樟桑ノ名アリ何レノ木葉
 ニテモ喰フニヤ栗標ニ際ルベカラス

天蚕繭コレ蝶ニ化シ
 マユノクチヲヤブリテ出テ
 アトノ空殼ナリ此蛾形大
 也別ニ畜アリ



此モノマユ野蚕ヨリ大ニノ絲堅靱ナリ唐山ニテハ
 此日ホラ造ハシムル前ニ腹ヲ裂テ其絲ヲトルト云野
 蚕絲也



熠燿宵行

萤火

極大者初夏先出者
名牛ボタル其光更可
其出不多小日向水流
之傍得之

稻氏云張華詩涼風振落

熠燿宵行是熠燿ノ為

螢也此後為得但傳熠燿ハ

燐也燐ハ螢火也之說非ナリ

不可後孔疏詳辨之

正字通螢下莖切音榮其腹下

有火一名夜光一名宵燭爾雅螢

火一名即熠月令季夏腐草為螢

西北堂大者如葉秋陰雨夜飛

按詩經新注熠燿音燿ヲ螢

火ノトス宵行ハ夜ルユクトヨマセテ

其名ニセズ古注ハ宵行ヲ異名トス

新注ハ所說總ナリトスベシ



螢火

ホタル七ヶ月盛ニ出昼ハ水田ノ畔ノ
根ニ付テ眠夜ニ至レハ飛フ

頭赤ク豎ニ筋ノアルモ

有リナキモアリ近來

取ルモノヨク群集ル所ヲ考ヘ水際草葉ノ裏ニツクラ

昼ニトル所ニ聚リ居ルニヨリテ却テ得易トス



水蠅

ミカラヤガラ虫ノ一種ノモノ也
ユリノハナスイ

池塘水中ニ生テ臭子ヲ食フ

夏日天晴ノ時石上ニ知ラ曝メ

高飛ス時至レハ復水中ニ飛入

ル吻上ノ兩子蟻蛭ノ如シ其身

扁薄シ肉ナシ故ニ身殼空ト

云





ミガラ 太鼓打 凡云
丙子年四月廿日寫

遍身ヒラタク黒シ歩ム
至テ遅シ鈍ナリ終ニ水上
ノ艸ニハイ上リ緊抱キ背
破レテ化メ蜻蛉トナルモ
ナリ

頭ノ形

松藻虫

俗ニホシボツト云フ秋月セニキ汚流水ニウキ
仰ニ流ニ逆テ游行ス水洞ノハ羽飛スマツモ
出ト云フ
松藻ノ
中ニ生シ
行潦水
ニモセズ
見アタルナリ



タイコウチ
全身薄扁而如水葉然至堅硬



水蠶一種 ヤガラムシ

コモノ 鯽金魚
水龜ト戦テヨウ
ニ食フ殊更ニ小
ナスモノナリ石上
高ク飛行ス
ノ害ヲナス又
水ニ沉メテ後
魚ニハ害ヲ
ニ背ヲ曝メ





蝦蟇其ノ脊破レテ
蜻蛉出レハ其殘殼
如此

水蠶脱殼



文化六己巳ノ秋月 本城市休息
御庭中ニ此虫出テ尋ニ付名未詳
何木ニ生ル処モ不分明ノ由ナル前
年榎櫃ニ付居ル虫トテ一覽スル虫ニ
能似居リハ趣ナル四脚有テ行
遅シ尾ソリ返リテ裏ノ方見ハル異
形ノモノナリ略其状ヲ寫シテ献ス
其後野外翹搖ノ葉ニ着モノヲ取包ミ
タル紙ヲクヒサキ其身ヲ蔽ヒ蛹ニ化ス
数月ヲ経テ蠶トナル褐色ニメ不美
尋常ノ状ナレハ棄去ルコトニ因セズ





負子 コガイムシ 京都ニテヒルメシモチト云

汚水ノ溝中或池塘中ニアリ其形タイゴ

打ニ似テ背青黒六脚黒褐テ赤色ヲ

帯フ雄ノ背上ニ雄者印ヲウミツクルニ

粘着シテハナレズ不日ニシテ其印

中ヨリ子ヲ生スル一^ノ夜ニ二十個ニ及フ

始ハ白色ニ微黄ヲ帯背一條ノ緑

色ナル処アリ印ヲ出テ立処ニ水中ヲ

遊走スル一^ノ至テ疾速ニ漸々ニ青黒色ニ

変ス印ヲ負最初ハ白色ニ明徹凹カナル

形ナリ日ヲ経テ長ク横ヨリミレハ蜂房ノ

如ク上ヨリミレバ龜甲紋ニ似タリ又微ク褐色ニ

変スレハ印頭兩眼ノ黒點スキトナリ見テモノ

ナリ印ヲ破リテ出ル処至テ速ナリ小兒トリテ

弄玩ス龜甲出ト云龍虱ニ比スレハ甲柔ナリミカラノ

類ナリ印尽ク子ヲ生スルノ後甲アリテ石上ニ日ニ

晒シテ能飛行ス事物紺珠ニ負子ノ名アリ江戸
方言カツバト云酉陽雜俎ニ云負子
水虫ニ有子多負之ト云モノ見之

カヘリタテノ子ヲ
顕微鏡ニテ見ルニ
下圖、如シ

卵ノ形同斷頭ノ方
兩眼透徹メニ完全
体白クスク根ニクス子
リノ如クスキトナルモ
ノアリ甲ニ粘着ス



腹ハ中ノスジノ処
中高ナリ



田中芳男ノ説ニ
明治七年六月実
物ヲ檢スルニ雄尻
ノ尖凹ヲ帯ヒテ濁
ク雄ハ雌ニ比スレハ
微ク細ク而ニ未
ノ刺様ノモノアリ
卵ノ數ハ百九十ヨリ
百三十二至ル長ハ
一分弱褐色ニ成ニ
至ツテ一分五厘
許アリ





鎮江府志云蠖俗呼天牛
坡儒詩云兩角徒自長空
飛不服箱為牛意何
益利吻穴枯桑
則謂天牛即
啣桑也大抵有
桑樹者即為啣桑耳



天牛 カミキリムシ 杣把虫トモ云フ
寛政十二庚申六月四日雲州内中原一條
小左衛門家出テ障子ヲ喰破ル音スサマジ
色青黄腹ノ方黄褐色ノ毛アリ大ナ如此
罔鬚長サ二寸スギナノ節ノ如シ頭ノ兩傍
ニ二角アリ錐ノ如ク尖銳ナリ当ルベカラス
羽ヲ開テ飛グ其勢鉄壁ヲ破ルカ如シ
元文五年夏毒虫出テ多ク人ヲ悩ス
テアリ其蟲ヲ砂セト云フ右ノ虫形
状ヲ詳ニセズ此虫モシ砂セトモテハナ
キヤト里老云ハリト云フ





栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 02-035

国立国会図書館

